

防露式密結ロータンク



メーカー登録済

※品番は代表的なものを例示

DT-PA280UTK

DT-PA250UTK

安全のために守ってください！

便器を安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。
施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語の説明

- 警告**・・・取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。
- 注意**・・・取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

警告

- 本体や電源プラグに水や洗剤をかけないでください。
※ 感電・火災の恐れがあります。(100V 電源使用の場合)
- 修理技術者以外の方は、分解したり修理・改造は行わないでください。
※ 感電・火災・ケガの原因になります。(100V 電源使用の場合)
- ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししないでください。
※ 感電の原因になります。(100V 電源使用の場合)
- バスルーム内など湿気の多い場所には、設置しないでください。
※ 感電・火災の原因となります。(100V 電源使用の場合)
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。
※ 電源コードが破損し、感電・火災の原因になります。(100V 電源使用の場合)
- ガタついているコンセントは使用しないでください。
※ 感電・火災の原因になります。(100V 電源使用の場合)
- 交流 100V 以外では使用しないでください。
●タコ足配線など定格をこえる使い方はしないでください。
※ 火災の原因となります。(100V 電源使用の場合)
- 電源プラグをコンセントに差し込むときは、根元まで十分差し込んでください。
※ 感電・火災の原因になります。(100V 電源使用の場合)

注意

- 陶器は割れものです。
●施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。
●施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。
※ 破損部でケガをしたり、漏水により室内浸水の原因になります。
●ストレーナーを外すときは、必ず止水栓を閉め、便器洗浄操作を行ってください。
●ストレーナーを取り付ける際は、ゴミがリングに付着していないことを確認し、すき間がないようにしっかりと閉めてください。
※ リングにゴミが付着していると、漏水し、室内浸水の原因になります。
- 止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行ってください。
※ 漏水し、室内浸水の原因になります。
- お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
※ 凍結破損で漏水し、室内浸水の原因になります。
- 新築・改修工事後や、水道断水の復旧後は、必ず配管内の空気を抜いてください。
※ 配管内に空気が混入した状態で給水器具を使用すると、器具・配管の破損や故障の原因となり、ケガをしたり水漏れによって建物、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。

株式会社 LIXIL

●商品・施工方法についてのお問い合わせ

お客さま相談センターまで

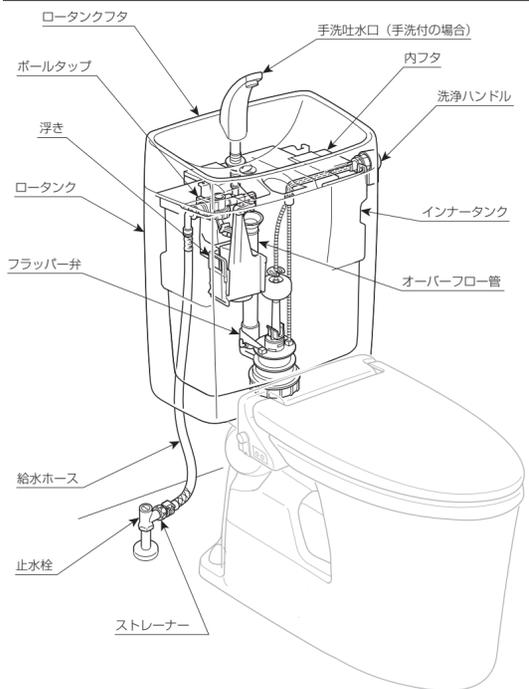
ナビダイヤル TEL 0570-017-173

受付時間 平日 9:00～18:00

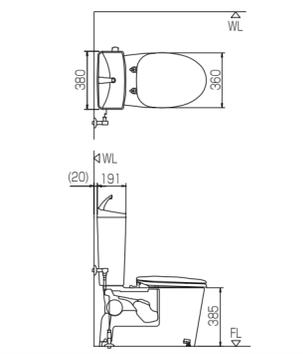
土日・祝日 9:00～17:00

(ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休日は除く)

各部のなまえ

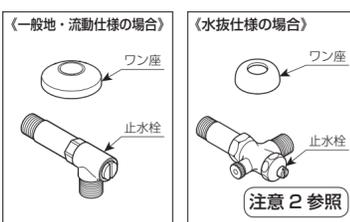


●施工完了図 (例) (単位:mm)



部品の確認 (梱包内容を確認してください。)

ロータンクセット ※イラストは手洗付の場合	
給水ホース ストレーナー	
クイックファスナー (白)	
ナット類	
説明書セット	
フタ固定部材 ※フタ固定タイプの場合	



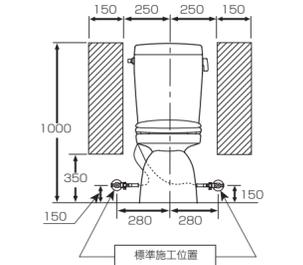
注意 1

給水ホースのクイックファスナーは外さないでください。
※きちんとはまっていないと漏水します。

注意 2

●水抜き仕様の場合で、給水位置が下図の範囲内の場合。
一水抜き操作や給水ホースの取廻しができないため、下記部材が別途必要になります。
取替用止水栓セット A-7962

●給水位置が下図以外の場合、給水位置の変更が必要です。



施工方法

1 止水栓の取付け

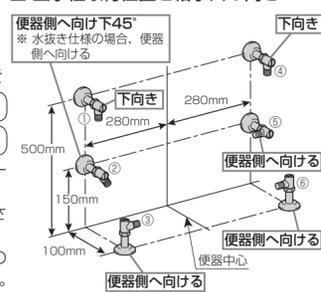
壁・床仕上げ完了後、右図を参考に止水栓を1カ所取り付けます。

注意 3 参照

注意 4 参照

※ 止水栓を給水管に取り付けるときは、ねじ部にシールテープなどのシール材を巻き付けてください。
※ 取替用止水栓を使用する場合は、止水栓に同梱されている説明書を参照して取り付けください。
※ 同梱されている止水栓は、始めは開いていますので、取付後にスピンドルを回して閉めてください。

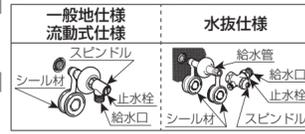
■ 止水栓取付位置と給水口の向き



■ 給水位置早見表 (リトイレタイプは除く)

仕様	左給水		右給水	
	壁	床	壁	床
一般仕様 流動仕様	①②	③	④	⑤
水抜き仕様	②		⑤	

■ シール材巻き付け位置



2 ロータンクの取付け

(1) ロータンク下面にある密結ボルト2本と便器のボルト穴を合わせてロータンクを設置します。このときタンク差込口にディストリビューターが入り込むようにロータンクをおろします。

注意 5 参照

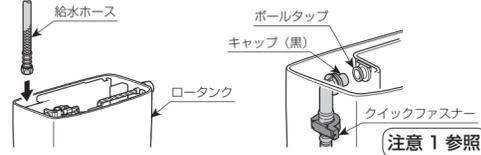
(2) ロータンクを固定します。

注意 6 参照 注意 7 参照



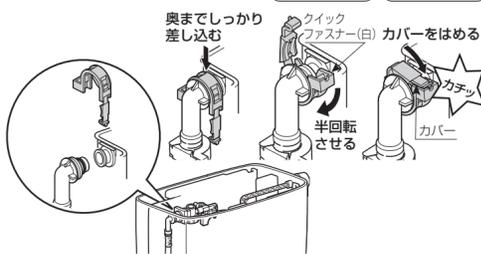
3 給水ホースの接続 (ボールタップ側)

(1) ロータンク上部から給水ホースの先端をロータンク下部の穴に通します。
※ 給水ホースが曲がっている場合、少しならしてまっすぐにするのと穴に入りやすくなります。



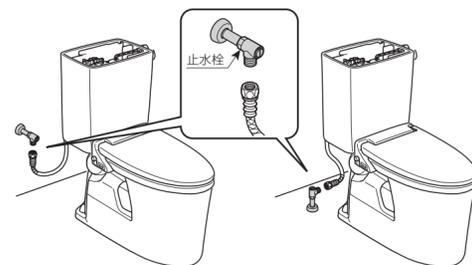
(2) 給水ホースからキャップ (黒) を外します。
(3) ボールタップに給水ホースを差し込み、クイックファスナー (白) を奥まで確実に差し込みます。
(4) カバーをはめやすいように、クイックファスナー (白) を半回転させます。
(5) クイックファスナー (白) のカバーをはめ込みます。取付後に回転させて、確実にハマっていることを確認してください。

注意 8 参照 注意 9 参照



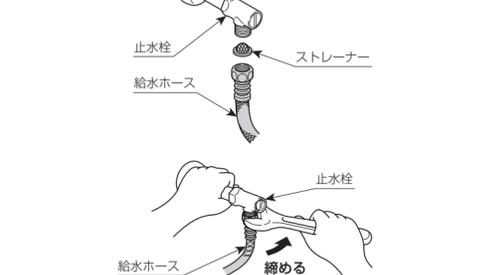
4 給水ホースの接続 (止水栓側)

《壁給水の場合》 《床給水の場合》



ストレーナーの向きに注意して、下図のように給水ホースを止水栓に取り付けます。
(締付トルク 10～15N・m)
給水ホースがねじれないように注意してください。

注意 10 参照 注意 11 参照



※給水ホースを取り外す場合は「⑩ ストレーナーの清掃」を参照してください。

注意 3

止水栓の給水口の向きに注意して取り付けください。
※ 反対側に向けるとロータンクの給水ホースが接続できなくなります。
※ 給水ホースが折れ曲がらないよう、給水口の向きを調整してください。

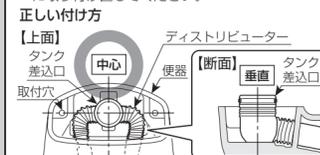
注意 4

止水栓の給水口は、給水ホースが折れないように取り付けください。
※ 止水栓の給水口の方向および、給水ホースの取り廻し方法は、便器の排水方向により異なります。詳細は以下から読み取って、資料をご確認ください。
《一般地・流動仕様の場合》 《水抜き仕様の場合》



注意 5

●タンク設置前
●ディストリビューターを確実にハマため以下の点に注意してロータンクを設置してください。
1. ディストリビューターの中心と密結ボルト穴が合っている。
2. ディストリビューターが便器上面に対して垂直である。
上記の2点と異なる場合は、正しい位置と角度に取り付け直してください。



●タンク設置時
●ディストリビューターは、必ずタンク差込口に確実にハマってください。
※ 確実にハマらないと漏水・止水不良の原因になります。



●タンク設置後
●フラッパー弁を上げて、ディストリビューターが正しく差し込まれていることを確認してください。



※ロータンクが正しく取り付けられていないと、ディストリビューターが変形し漏水・止水不良の原因になります。

注意 6

取付ナットの締付けは片利きのないように左右交互に少しずつ行ってください。
※ 陶器が割れる恐れがあります。
※ 漏水の原因になります。

注意 7

ロータンクを背面側に押しつけて施工しないでください。
※ タンクが破損して、漏水の原因になります。

注意 8

リングを傷つけないように注意してください。
※ リングが切れたり、傷ついたりすると漏水します。

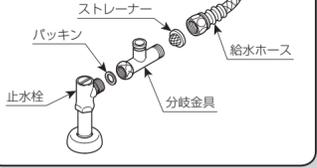
注意 9

クイックファスナーのカバーは、確実にハマってください。
※ きちんとはまっていなくてクイックファスナーが外れ、漏水の原因となることがあります。



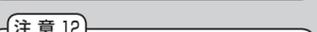
注意 10

シャフトイレを取り付ける場合は、別途、分岐金具が必要です。
※分岐金具は止水栓と給水ホースの間に取り付けてください。
※シャフトイレに同梱の施工説明書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。



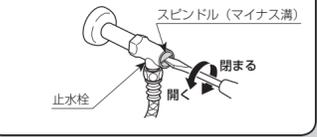
注意 11

給水ホースは鋭角に曲げないでください。
※破損して漏水する恐れがあります。



注意 12

●止水栓のマイナス溝は樹脂製のため、傷をつけないように注意してください。
※マイナス溝にあったマイナスドライバーを使用してください。
●止水栓を全開にする場合は、固着を防ぐため必ずスピンドルを全開の位置から1/4回転戻してください。



注意 13

正しい位置に水位が調節されていない場合、オーバーフローによる止水不良や、水量不足による洗浄不良（紙づまり、汚物残り）の原因になります。

注意 14

接続管は内フタにしっかりとめてください。ロータンクフタが浮いていたり、ぐらつく場合は、差し込み不十分ですので、再度差し込み直してください。
※漏水の原因になります。

注意 15

給排水接続部の水漏れ点検は、数回繰り返して水を流さないで確認が困難場合があります。

注意 16

●溜水面が低いと以下の現象が起こる原因となります。
・便器に汚物が付着する場合があります。
・封水切れによる臭気上がりや衛生害虫等の侵入が起こる場合があります。
●排水管に曲りが多かったり、通気が不十分だった場合、溜水面が低下する場合があります。
【溜水面の判断に迷った時は】
ペットボトルやバケツなどで徐々に水を足し、溜水面が上昇しない場合は正常です。

注意 17

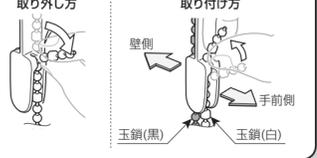
補給水受けをカットする際は、カットした破片がタンク内に落下しないように注意してください。
※洗浄不良や止水不良の原因になります。

注意 18

指定の位置以外に取り付けしないでください。
※止水不良の原因になります。

注意 19

玉鎖は手前側が白、壁側が黒になるように取り付けてください。
※反対に取り付けると洗浄不良の原因になります。その後ハンドルを操作し、正常に動作することを確認してください。



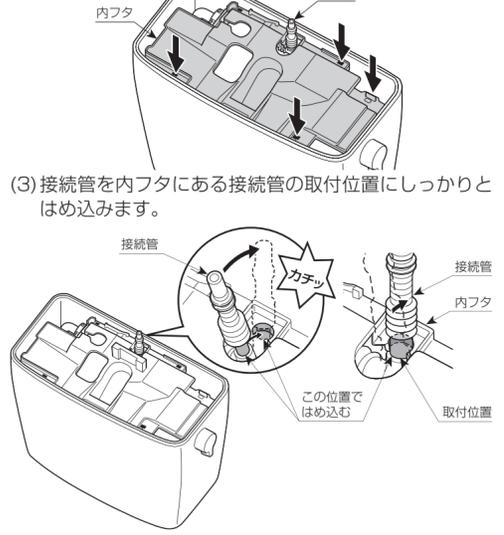
5 止水の確認

- ロータンクの内フタを取り外します。
- ボールタップの接続管の出口を下に向けます。
- 止水栓を全開にしてロータンクに通水します。

- 給水が終わったらロータンク内の水位（水面）がオーバーフロー管のウォーターラインマークに合っていることを確認します。
- 水位がウォーターラインマークに合っていない場合は、(5)の作業を行います。
- 水位をウォーターラインマークに合わせます。

6 ロータンクフタの取付け

- 止水栓を閉めます。
- 手洗無の場合、矢印（図中）4カ所を押して、インナータンクにしっかりとめ込みます。(5)へ進みます。手洗付の場合、内フタに接続管を通し、矢印（図中）4カ所を押して、インナータンクにしっかりとめ込みます。
- 接続管を内フタにある接続管の取付位置にしっかりとめ込みます。



- 接続管を手洗吐水口の下端部に差し込むようにして、ロータンクフタを載せます。



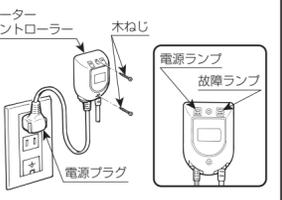
- 《フタ固定タイプの場合》
フタ固定金具でフタを固定します。フタの固定は、フタ固定金具に同梱の施工完了図をご覧ください。
- 止水栓を全開にします。

7 便座の取付け

便座の取付けは各施工説明書をご覧ください。

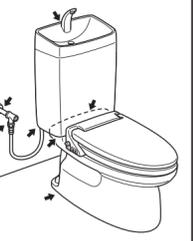
8 ヒーターコントローラーの取付け（ヒーター付便器の場合）

- 電源コードの長さを考慮してヒーターコントローラーの取付位置を決め、木ねじにて固定します。
- 電源プラグをコンセント（AC100V）に差し込み、電源ランプが点灯（オレンジ色）、故障ランプ（赤色）が消灯していることを確認します。



9 水漏れ点検と洗浄確認

- 洗浄ハンドルを操作して便器洗浄を数回行い、各接続部に漏水がないことを確認します。同時にフラッパー弁の開閉、ボールタップの動作、洗浄ハンドルの戻り具合など、ロータンク内部金具に不具合がないことを確認します。
- 便器鉢内に長さ760mmのトイレットペーパーを丸めたもの7個を入れ、これが1回の洗浄で排出できることを確認します。もし、1回で排出できない場合は、フラッパー弁やその他の内部金具を点検します。

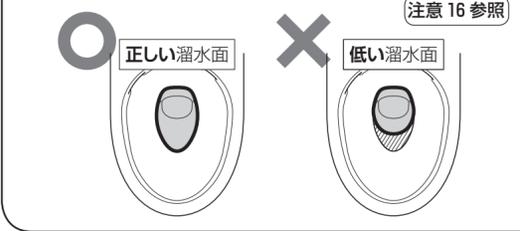


10 ストレーナーの清掃

- 止水栓を閉めます。
- 給水ホースと止水栓を固定している袋ナットを図のようにゆるめます。
- 止水栓からストレーナーを取り出して掃除します。
- ストレーナーの向きに注意して図のように取り付けます。

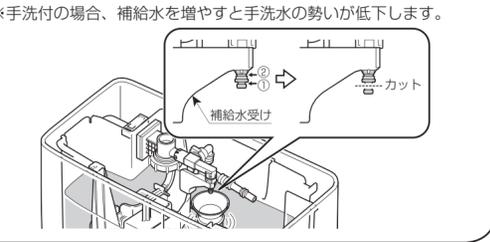
11 溜水面の点検

確認
洗浄ハンドルを操作して数回洗浄した後、便器の溜水面が低下しないことを確認します。
溜水面が低下しない場合は、調整作業は不要です。
溜水面が低下する場合は、便器の性能が十分に得られない可能性があります。右の調整作業を行ってください。



ロータンクに給水しない場合、または水を流してから5分以上便器鉢内に水が流れ続ける場合は、ダイヤフラムバックンの清掃をしてください。

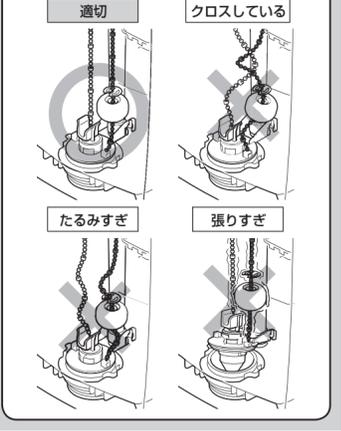
- 調整
- ロータンクフタ・内フタを開けます。
 - 補給水受けの①の部分をニッパーなどでカットします。
 - (2)の作業をしても溜水面が低下する場合は、②の部分をニッパーなどでカットします。



清掃方法は動画でご覧いただけます。
※通信料はお客さまのご負担となります。
※お使いの環境・端末によっては、閲覧できない場合があります。
※実物と動画のデザインが異なる場合があります。

注意 20

玉鎖の張りすぎやたるみすぎがないことを確認してください。
※洗浄不良や止水不良の原因になります。



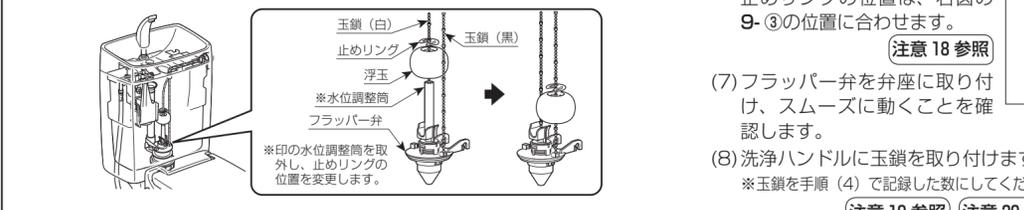
お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
(1) 止水栓を閉めて、ロータンクへの給水を止めます。

- ロータンクの洗浄ハンドルを操作して、ロータンク内の水を抜きます。
- 給水ホースを持ち上げるようにして、ホース内の水を完全に抜きます。
- 流動式の場合は給水ホースを止水栓から外します。
- 水抜方式の場合は止水栓の水抜栓を操作して配管内の水を抜きます。水を抜いた後は水抜栓を閉めてください。漏水の原因となります。

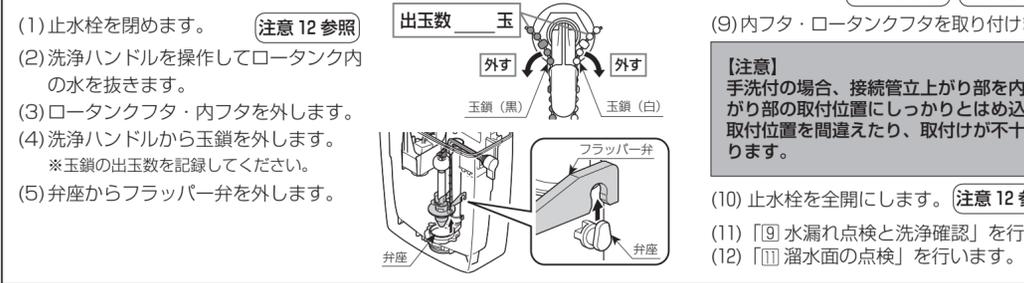


洗浄水量の増やし方（大洗浄約8L）

洗浄水量の増やし方は動画でご覧いただけます。
※通信料はお客さまのご負担となります。
※お使いの環境・端末によっては、閲覧できない場合があります。
※実物と動画のデザインが異なる場合があります。



- 止水栓を閉めます。
- 洗浄ハンドルを操作してロータンク内の水を抜きます。
- ロータンクフタ・内フタを外します。
- 洗浄ハンドルから玉鎖を外します。
- 弁座からフラッパー弁を外します。



- フラッパー弁を弁座に取り付け、スムーズに動くことを確認します。
- 洗浄ハンドルに玉鎖を取り付けます。
- 内フタ・ロータンクフタを取り付けます。



- 【注意】
手洗付の場合、接続管立上がり部を内フタにある接続管立上がり部の取付位置にしっかりとめ込んでください。取付位置を間違えたり、取付けが不十分だと漏水の原因になります。
- 止水栓を全開にします。
 - 「9 水漏れ点検と洗浄確認」を行います。
 - 「11 溜水面の点検」を行います。